

北里大学理学部同窓会報

2024年 第27号



出典：国立印刷局ホームページ

● CONTENTS ●

会長挨拶……………	P 2	北里大学同窓会公開講演会を終えて……………	P 9
教授就任のご挨拶……………	P 3	近況報告バトンタッチ……………	P 10
退任のご挨拶……………	P 4	新千円札発行に寄せて……………	P 13
2023年度理学部同窓会定期総会報告……………	P 5	理学部事務室より……………	P 15
第59回北里大学同窓会公開講演会報告……………	P 8	就職センター／同窓会からのお知らせとお願い…	P 16

理学部同窓会ホームページ：
<https://kitasato-rigaku-d.jp> または <https://北里大学理学部同窓会.jp>



ウィズコロナとともに

理学部同窓会長 甲斐 恒人
(HC20)

会員の皆様には大過なくお過ごしのことと拝察申し上げます。

さて、社会に目を向けてみますと三年余にわたり世界を席卷してきた新型コロナウイルス感染症が2023年5月に第5類へと移行され、これに伴い諸活動に対する制限が一段と緩和されてきた感があります。

そのような中、昨年度来母校や本会において喜ばしい話題がありましたのでご報告申し上げます。

はじめに母校北里大学ですが、2023年4月に相模原キャンパスに「未来工学部データサイエンス学科」が開学し、さらに2024年4月には新潟キャンパスに「健康科学部（仮称）看護学科及び医療検査学科」が開学予定になっています。

したがって、北里大学は、来年度から9学部構成になり、これに伴い北里大学同窓会の部会（学部同窓会）も当該学部の初回卒業生が輩出され、段階毎に増加していくこととなります。母校の未来に向かって大変楽しみな出来事だと思っております。

次に本会が担当する「第59回北里大学同窓会公開講演会」が2023年2月に開催できたことです。

この事業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響から開催が3年にわたり延期を余儀なくされてまいりましたが、想定を上回る方々にご来場をいただき盛会裡に終えることができました。

素晴らしいご講演をいただきました『「悪魔のおにぎり」考案者が語るフードロス』の渡貫淳子

先生、『新型コロナウイルス感染症の現在～北里大学の取り組み～』の久保誠先生、そして『伝染病との戦い。近代国家造りと衛生について』の森孝之先生には重ねて感謝申し上げます。

懸案でありましたこのイベントをつつがなく成功させたことは、今後の本会活動へ大きな弾みになるものと考えております。

三つ目は、理学部教職員との懇談会を4年間のブランクを経てようやく2023年7月に所定の形で開催することができたことです。

本懇談会は、学部長、学科長、就職指導委員長および事務長と本会役員が出席して、意見交換をしながら相互の理解を深める有益な場です。謂わば本会活動の基軸であると認識しています。

今回の懇談会におきましては、ひとつの課題が提案されました。それは「企業（卒業生）から学生たちへの情報伝達の必要性」です。これは、本会活動のテーマの一つでもある在校生とのコミュニケーションづくりに寄与できる題材でもありますので、本会としては様々な創意工夫をこらし、着実に実施できるよう検討していきたいと考えています。

ウィズコロナとともに母校や本会が変革しつつある状況をご報告申し上げてまいりましたが、本会がその役割を果たすためには、会員の皆様のご理解、ご協力が必要不可欠です。

今後とも忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただければ幸いに存じ上げます。



2023年度定期総会集合写真



教授就任のご挨拶

生物科学科分子生物学講座 松尾 拓哉

この度、高松信彦先生の後任として、生物科学科・分子生物学講座の教授を拝命致しました松尾拓哉と申します。私は山口大学大学院で学位を取得し、名古屋大学の遺伝子実験施設で約20年間にわたり研究・教育に携わった後、北里大学へやって参りました。国立大学の研究施設から私立大学の基幹講座へ移ったということで、最初のうちは驚き、戸惑いの連続でした。たくさんの授業、たくさんの学生たち、外研先にもたくさんいる学生たち、慣れない事務手続きの数々、真夏のエアコン改修工事、土日の運營業務、等々。次々とやってくる業務に息も絶え絶えになりながら、何とか前期を完走しました。現在、後期に入って2カ月ほどが経過し、ようやく自分のペースを掴み、この原稿に取り掛かったところです。

私は体内時計を研究しています。体内時計は、我々の生活のリズムを作り出すメカニズムです。体内時計の異常は、様々な病気につながるため、体内時計を理解することは、予防医学やクオリティオブライフの向上という観点から大変重要です。と、このあたりまでは、北里大学に赴任してきた教員っぽい研究紹介かと思いますが、私の研究対象はちょっと変わってしまっていて、「藻」です。藻で体内時計を研究しています。哺乳類の体内時計の中核は、脳の視床下部の視交叉上核という神経核にあります。視交叉上核を破壊すると、哺乳動物の活動リズムは消失するため、視交叉上核こそ唯一無二の体内時計中枢と信じられてきました。ところが、時計遺伝子が発見されたあたりから風向きが変わりました。時計遺伝子が視交叉上核だけでなく、ほぼ全身の細胞に発現し、しかも明瞭にリズムを刻んでいることがわかったためです。今では、体内時計は個々の細胞に備わった基本的な構成因子として細胞内の時間的秩序を形成し、視交叉上核は全身の細胞の時計を指揮するこ

とで個体としてのリズムの調和を保つための神経核であることがわかってきました。

私は体内時計がリズムを生み出すメカニズムを分子レベルで追究したいと思っています。そのためには、細胞で十分なのです。また、多細胞生物である必要もありません。出来るだけ単純な単細胞生物でいいのです。そこで私は単細胞性の緑藻であるクラミドモナスやカサノリを使って研究を行っています。これらの単細胞緑藻は、哺乳類細胞では到底できないような実験が可能です。クラミドモナスは培養が容易な小さな生物で、いわゆる遺伝学に適しています。何万という変異体を作って解析することが出来ます。カサノリは傘のような形をした生物です。全長で数センチメートルになりますが、たったひとつの細胞、ひとつの核から成る、正真正銘の単細胞生物です。大きな細胞ですので、核を除いたり、別の細胞へ核を移植したり、他の個体と融合させたりできます。事務用のハサミがひとつあればできるのです。私は、このような藻の特徴を最大限に生かして、体内時計の分子メカニズムに迫りたいと考えています。

北里大学理学部へ赴任してとても印象的だったことは、学生の雰囲気がとても良いということです。この雰囲気は大事にしていきたいと思っています。また、研究環境が整っています。これはハード面だけでなく、研究に対する考え方のようなソフト面においてもです。素直で元気な学生たちと一緒に、生命の真理の探求を楽しむことが出来る場所であると強く感じています。分子生物学講座には、柴忠義先生、高松信彦先生と引き継がれてきた教育・研究の良い流れがあります。私はこの流れを引き継ぎ、さらに発展させるべく全力を尽くす所存です。しかし、まだまだ未熟者です。同窓会の皆様のご指導ご鞭撻のほど、どうかよろしくごお願い申し上げます。



退任のご挨拶

名誉教授 高松 信彦

皆さん、こんにちは。梅雨もやっと半ばになりました。最近では、降れば土砂降り、晴れば猛暑日ということも多く、「梅雨寒」という言葉を使う機会もないほど、気候も年々変わってきている感じです。

研究室の片付けは、結局、4月2日までかかってしまいました。4月以降の計画を立てる暇もなかったもので、まずは生活リズムを作るため、長年さぼっていた自宅の片付けを始めました。在職中は断っていたセミナーも引き受け、冬眠研究の話をしに出掛けたり、科研費の実績報告書を作成しながら、一緒に実験した大学院生の結果を論文にまとめるため見直したりしています。そんな中、大学のemailアドレスが使用できなくなったことは不便だけでなく、長年積み上げてきた研究成果からも切り離されてしまったような喪失感があります。退職後の研究成果の発表にも使いたいのので、生涯使用可能とはいかないまでも、学生も含め、5~10年程度は使用できるようにならないものかと感じています。

私が衛生学部生物科学科の柴忠義教授の分子生物学講座に助手として加わったのは30歳の時でした。研究室のスタッフは柴先生の他に、前年度から助手として加わっていた同い年の善岡克次さんと牛久保宏美さんでした。学生もまだ修士1年生と卒業研究生だけしかおらず、年齢の近い集まりだったので、私も大学院の延長のような気分で研究生生活を開始しました。なるべく長く自分自身で実験ができる環境をと思い北里に来ましたが、退職間際まで実験ができたことはとても幸運でした。一方、教員になるという意識が希薄だったため、講義に関しては学生さんに逆に育てられ(鍛えられ?)、何とかやってこられたような感じがす。着任当時は、大学までのバス通りは片側一車線で歩道もなく、雨の日に傘をさしているとバスに傘が接触しそうな場所もあったので、緑道を

通って自転車通勤をすることにしました。当時の緑道は街灯もなく、雨の日にはすぐにぬかるみができてしまう凸凹道でしたが、雨上がりの朝は森林浴をしているような心地よさがありました。モンシロチョウに似たキアシドクガが大量発生して話題になったこともありました。相模原キャンパスは今や近代的な高層ビルが林立するキャンパスに変容しつつありますが、当時は空が広い、いかにも郊外の大学でした。正門から衛生学部1号館への通りには銀杏並木が続き、東側のグラウンドを桜並木が取り囲み、各所に立派な櫟などもありました。新たな校舎が建設されるたびに樹木が切り倒されるのを名残惜しく眺めていたので、ちょうどよい時期に退職したのかなと感じています。

生命科学の研究は、放射性同位体を使って個々の遺伝子の発現解析を行っていたときには想像すらできなかったような幾つもの技術革新により、複雑な生命現象の解析も可能な時代に突入り、今後どんな研究成果が出てくるか今更ながらとてもワクワクしています。その一方で、酵素の活性やキットの原理を理解せずに実験が行われたり、さらに酷いことには身近にも捏造の疑惑が出るほど研究不正は世の中に広まってしまっているようで、自然科学の研究にとって非常に残念な状況も出てきています。生成AIを含め、折角このような素晴らしい科学技術が活用できる時代になったからこそ、学生諸君には確固とした基礎知識を身に付け、目先の成果にとらわれることなく、研究を通して自分自身で考える力を育ててほしいと願っています。また、教員の方々も、研究以外の業務で多忙な中ではありますが、ぜひ知恵を絞って、工夫を凝らし、魅力的な研究を展開して理学部を発展させていってください。理学部から今後も素晴らしい研究成果が発信されることを楽しみにしています。

2023年度理学部同窓会定期総会報告

1 開催日時・場所

- (1) 日時：2023年5月20日（土）13：00
- (2) 場所：相模原キャンパスL2号館3階309講義室

2 形式

- (A) 対面方式
- (B) オンライン方式（Zoomによる参加）
- (C) 書面審議方式
- (D) 議長に表決委任

3 出欠者

(1) 出席者86名

小池惇平（HC1）、長原勝彦（HC1）、坂口 洋（HC2）、竹澤美男（HC4）、中野勝雄（HC5）、小沼和久（HC6）、石原裕三（HC7）、麻生綱男（HC8）、石川一郎（HC9）、石水和田（HC10）、蓮沼良一（HC11）、氏家重夫（HC12）、島崎道広（HC12）、藤本玲子（HC12）、衣川佳美（HC13）、内田 宏（HC14）、森 孝之（HC14）、伏見尚登（HC16）、須貝昭彦（HC18）田所順一（HC19）、八井田文子（HC19）、飯島 宏（HC20）、甲斐恒人（HC20）、鈴木芳弘（HC21）、千葉貴子（HC21）、小泉博之（HC22）、山下宣行（HC23）、椎名文乃（HC24）、小笠原正勝（HC25）、長谷部浩司（HC27）、佐藤康之（HC28）、鈴木美香（HC29）、渡辺知広（HC30）、平井正美（HC31）、福山勝也（HC31）、村上裕章（HC31）、石原 稔（HC32）、伊藤昌史（HB1）、木村武俊（HB1）、坂内健志（HB2）、西條 護（HB4）、前川敏郎（HB4）、篠川裕子（HB5）、井村幸介（HB6）、桑原美保子（SP1）、酒井利奈（SP1）、國廣喜央司（SP6）、松本俊英（SP8）、田草川英昇（SP9）、今村 敦（SP10）、奥田悠介（SP12）、高嵩美文（SP13）、杉本 愛（SP15）、長谷川祐紀（SP17）、原 英寿（SP24）、須藤愛莉咲（SP25）、田口美穂（SP26）、中條総子（SC1）、中野章代（SC3）、藤井祐介（SC4）、東海林周平（SC6）、荒木恒平（SC9）、前田晴紀（SC9）、厚木将志（SC13）、新美 恭（SC18）、沖山悠太（SC19）、沼上智美（SC21）、坂元風舞（SC26）、吉本真紀子（SB4）、田村 啓（SB4）、三浦慎一郎（SB5）、吉野成嗣（SB7）、江澤絵真（SB9）、齋藤昂良（SB10）、菅谷大地（SB10）、石川早紀（SB11）、石毛達也（SB12）、上村和豊（SB12）、森真美子（SB14）、千葉 慧（SB15）、小田本実佳（SB17）、小田祐介（SB22）、小寺穂乃花（SB23）、野原 歩（SB24）、太田昌美（SB25）、平尾 唯（SB26）

(2) 欠席者52名

(3) オブザーバー

名誉会長 沼上 清彦（HC6）

4 開会の辞

司会の松本俊英理事（SP8）から、総会の成立要件は、規約第15条第1項第2号により、「総会の成立は構成員の3分の1以上の出席を必要とする。」と規定されており、

構成員138名に対して、86名の出席（対面35名、Zoom5名、書面審議12名、議長委任34名）があり、本会は成立することが報告され、開会が宣言された。

5 議長団の選出

松本俊英理事から議長団（正副議長および議事録署名人）の選出に関して説明が行われ、以下の議長団が提案され、全会一致で選任された。

- 議長：沖山悠太代議員（SC19）
- 副議長：前田晴紀理事（HB4）
- 議事録署名人：森 孝之理事（HC14）
小田本実佳代議員（SB17）

6 会長挨拶

甲斐恒人会長（HC20）から、定期総会への出席に対する感謝とともに、日ごろから同窓会活動への理解と協力に対して、謝意が述べられた。また、この一年間の同窓会活動について説明があり、本会が担当した「第59回北里大学同窓会公開講演会」が盛会裡に終わったことが報告された。

7 決議事項

初めに2022年度事業報告、2022年度収支決算報告および2022年度監査報告が以下のように提示され、全会一致で承認された。

第1号議案 2022年度事業報告

1) 会報の発行

同窓会報第26号（通算52号）を2023年1月31日（火）に6,850部を発行した。

2) 理学部教職員との懇談会

2022年12月8日（木）14時～15時に相模原キャンパス理学部S号館1階大会議室にて学部教職員と本会役員との懇談会を開催し、相互理解を深め、連携を強化した。

3) 会員集会への援助

2022年度の集会援助の申請は無かった。これは新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から会員集会が実施されなかったためと考えられる。

4) ホームページ等の運用

以下の項目などをホームページで適宜更新した。

- ① 2022年度会務予定を掲載
- ② 2022年度年会費納入のお知らせ
- ③ 同窓会報第26号（通算52号）を掲載
- ④ 第59回北里大学同窓会公開講演会のお知らせ
- ⑤ 2022年度理学部生物科学科分子生物学講座高松信彦教授退任記念講演会のお知らせ
- ⑥ 情報提供の手段としてのTwitter運用

5) 会員情報の管理

6) 理学部若手教員学術集会への支援

理学部の若手教員主催の勉強会「若手Lab」が開催され、本会からの援助金を支給した。

- 7) 北里大学同窓会公開講演会（第59回）開催
2023年2月11日（土）14時～16時30分にユニコムプラザさがみはらセミナールーム2で開催したところ97名の参加があった。
- 8) 第17回「卒業研究功労賞」の表彰
- 9) 準会員事業への協力（卒業記念パーティー）
新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。
- 10) 退任教授への花束贈呈
2023年3月24日（金）15時～16時に開催された生物科学科分子生物学講座、高松信彦教授の退任記念講演会に出席し、花束を贈呈した。
- 11) 個人情報保護方針の改訂および個人情報保護規程の制定
北里大学理学部同窓会個人情報保護方針を改訂し、北里大学理学部同窓会個人情報保護規程を制定した。

第2号議案 2022年度収支決算報告

自2022年4月1日 至2023年3月31日

収入の部

(単位：円)

費目	① 予算	② 決算	増減(②-①)
学部還元金	4,898,000	4,898,000	0
年会費	300,000	390,000	90,000
会報送料補助	448,000	448,000	0
利子	1,000	201	△ 799
前年度事業資金	0	0	0
雑収入	0	0	0
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	2,666,002	2,666,002	0
合計	8,313,002	8,402,203	89,201

支出の部

(単位：円)

分類	大項目	中項目	① 予算	② 決算	増減(②-①)	
運営費	会議費	総会費		625,308		
		理事会費	1,800,000	447,933	1,346,144	
		委員会費		272,903		
	事務局費	事務人件費		1,730,000	838,113	
			通信費		41,704	
			物件費		96,318	
			雑費		22,409	
	渉外費	慶弔費		300,000	11,474	
			交際費		59,542	71,016
	事業費	集会援助費		200,000	0	△ 200,000
会報発行			1,350,000	1,167,233	△ 182,767	
就職ガイダンス			0	0	0	
教職員との懇談会			250,000	29,460	29,460	
講演会協力費			100,000	363,256	363,256	
学術集会補助			50,000	50,000	50,000	
卒業研究功労賞			120,000	120,000	120,000	
広報費			80,000	45,800	45,800	
準会員支援			500,000	208,010	208,010	
積立金			1,700,000	1,700,000	1,700,000	
次年度用事業資金		0	0	0		
予備費		133,002	0	0		
合計		8,313,002	6,099,463	6,099,463	△ 2,213,539	
次年度繰越金					2,302,740	

貸借対照表

2023年3月31日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	74,948	前期積立金	12,220,638
郵便貯金	401,722	次年度繰越金	2,302,740
普通預金	6,609,727		
事務局用普通預金	331,430		
定期預金	7,105,551		
合計	14,523,378	合計	14,523,378

第3号議案 2022年度監査報告

監査報告書

北里大学理学部同窓会規約第9条第4号の規定に基づき、2022年度(自・2022年4月1日 至・2023年3月31日)の会計並びに事業の執行を監査した結果、適正に処理されていることを認めます。

2023年4月8日

北里大学理学部同窓会

監事 村上裕章
監事 長原勝彦

第4号議案 新代議員選任(3名)の件

2022年度卒業生(理学部26期)から、学部が推薦する以下の代議員候補者3名を選任することが提案され、全会一致で承認された。

- ・物理学科 田口美穂 さん
- ・化学科 坂元風舞 さん
- ・生物科学科 平尾 唯 さん

第5号議案 代議員交代(1名)の件

衛生学部化学科29期代議員の吉田奈美代議員の後任として衛生学部化学科29期 鈴木美香さんを候補として選任することが提案され全会一致で承認された。

第6号議案 2023年度事業計画案の件

以下の2023年度事業計画案が提案され、全会一致で承認された。

- 1) 会報の発行
同窓会報第27号(通算53号)を2024年1月に発行する。
- 2) 学部教職員との懇談会の開催
学部教職員との懇談会を2023年7月に開催する。
- 3) 会員集会援助の継続
同窓生が同期会等を開催する際、200名までは1名あたり200円を、201名以上は1名あたり100円を援助する。ただし、同一趣旨の会への援助は年1回までとする。

4) ホームページ等の運用

- ① 新しい情報を会員へ提供するため、ホームページを随時更新する。
- ② SNS (Twitter) での情報提供に関して運用を継続強化する。

5) 会員情報の管理

本会の個人情報保護方針に即して、北里大学同窓会と連携しながら会員情報を管理・運営する。なお、会員集会援助に伴うDM用タックシールおよび当該名簿一覧表は継続的に提供する。

6) 理学部若手教員学術集会への支援

理学部の若手教員主催の勉強会「若手Lab」に対して援助する。なお、この会の活動は、理学部も認知しており、理学部（自己点検・評価委員会）から業績の評価対象になっている。

7) 北里大学同窓会公開講演会（第60回）開催

2023年度に医療衛生学部同窓会が担当して開催される北里大学同窓会公開講演会に協力する。

8) 第18回「卒業研究功労賞」の表彰

卒業研究において学生の取りまとめ等、秀でた活動を行った学生に対して卒業研究功労賞を授与する。

9) 準会員事業への協力（卒業記念パーティー）

卒業記念パーティーに祝い金を持参する。

10) 準会員との連携強化（新規）

サイネージを活用し「理学部同窓会」関連の情報発信を行い、準会員の興味関心を引き、理解を深めよう。

11) その他

第7号議案 2023年度収支予算案の件

以下の2023年度収支予算案が提案され、全会一致で承認された。

自2023年4月1日 至2024年3月31日

収入の部

(単位：円)

費目	① 2023年度	② 2022年度	増減(①-②)
学部還元金	4,679,000	4,898,000	△ 219,000
年会費	300,000	300,000	0
会報送料補助	458,000	448,000	10,000
利子	200	1,000	△ 800
前年度事業資金	0	0	0
雑収入	0	0	0
積立金戻入	0	0	0
前年度繰越金	2,302,740	2,666,002	△ 363,262
合計	7,739,940	8,313,002	△ 573,062

支出の部

(単位：円)

分類	費目	① 2023年度	② 2022年度	増減(①-②)	
運営費	総会費	1,000,000			
	理事会費	550,000	1,800,000	1,800,000	
	委員会費	250,000			
	事務人件費	1,400,000			
	通信費	50,000	1,780,000	1,730,000	
	物件費	300,000			
	雑費	30,000			
	慶弔費	200,000	300,000	300,000	
	交際費	100,000			
	渉外費				
事業費	集会援助費		200,000	200,000	
	会報発行		1,350,000	1,350,000	
	教職員との懇談会		250,000	250,000	
	講演会協力費		100,000	100,000	
	学術集会補助		50,000	50,000	
	卒業研究功労賞		120,000	120,000	
	広報費		100,000	80,000	20,000
	準会員支援		200,000	500,000	△ 300,000
	積立金	1,400,000	1,700,000	△ 300,000	
	次年度用事業資金	0	0	0	
予備費	89,940	133,002	△ 43,062		
合計	7,739,940	8,313,002	△ 573,062		

8 質疑応答

渡辺代議員：個人情報の保護規程について現状公開されているものはありますか。

[回答] 須貝副会長：まだHPなどで公開されていません。

渡辺代議員：公開されておらず内容がわからない規程について承認することはできません。

[回答] 沼上名誉会長：細則は理事会の議決で制定できるので、本総会では個人情報の保護規程を定めたという報告についてご承認をいただきたい。なお、当該規程は後日ホームページで開示させていただきます。

※総会終了後、理学部から川崎健夫学部長、岡寿樹物理学科長、弓削秀隆化学科長、木村透生物科学科長、三森康義就職指導委員長、ならびに浅沼寿郎事務長に出席いただき、学部・各学科・就職・事務室などの近況について報告していただきました。

第59回北里大学同窓会公開講演会報告

HC12 藤本 玲子

第59回北里大学同窓会公開講演会が2023年2月11日（土）ポーノ相模大野ユニコムプラザさがみはらセミナールーム2にて開催された。前日の雪警報にもかかわらず当日は晴天に恵まれスタッフの心配を払拭する穏やかな日和となりました。

募集定員は80名でしたが、開始前から席がほぼ埋まり大盛況の状況で講演が始まりました。

初めに甲斐理学部同窓会会長、次に新井全学同窓会会長の挨拶に続き、「日本人のパイオニア魂」～持続可能な社会“SDGs”の実現のために～ という壮大なテーマに3人の演者の方にそれぞれの立場からアプローチしていただきました。

<講演1>

「悪魔のおにぎり」 考案者が語るフードロス

第57次南極地域観測隊調理隊員 渡貫 淳子氏

昭和基地は、南極大陸の中でも暖かいエリアですが、白夜と極夜が1ヶ月半も続きます。調理隊員2人で30名ほどの隊員の食事を作りますが、最初の1回しか食料の調達が出来ないので生野菜の鮮度維持が一番問題でした。夜食におにぎりを作る時、天ぶらの残りの天かすつつゆ、青のりを入れたものが好評でつい手が出る事から「悪魔のおにぎり」と名前がつけました。南極では、フードロスを出さない努力がとても大切で、日本に戻ってきってから惣菜等が溢れているスーパーに違和感を覚えるほどでした。

最後に部屋を暗くしてスクリーンいっぱいにオーロラを映し出し南極の幻想的で不思議な空間を再現して講演を終えました。

<講演2>

新型コロナウイルス感染症の現在 ～北里大学の取り組み～

医療衛生学部微生物学教授 久保 誠氏

ウイルスの大きさや存在量等の概要を説明後、コロナウイルスの形状についてさらに詳しく掘り下げ現在の研

究内容を披露していただきました。

COVID-19のウイルス名は「SARS-CoV-2」で、エンベロープを持ち太陽のコロナの形をしている。このエンベロープに効果のあるアルコールや塩化ベンザルコニウム、次亜塩素酸等の最低必要濃度を検証してデータを製薬会社と共有して効果的な消毒剤の開発に力を入れています。

<講演3>

伝染病との戦い。近代国家造りと 衛生について

北里柴三郎記念室元事務長 森 孝之氏

北里柴三郎博士の生い立ちと当時の衛生事情、コッホ研究所から帰国後の予防衛生への取り組み、国家規模の予防政策を経て現在の大学等の構築について、将来を見据え持続可能な教育方針に基づいて来年度から新しく未来工学部が開校することを話された。

その後質疑応答で、南極における最終廃棄物処理の方法やワクチンの副作用等の話があり皆さん真摯に耳を傾けて聴かれていました。

最後に田村理学部同窓会副会長から当日の感謝と更なる大学への支援をお願いして閉会となりました。



渡貫淳子先生



久保誠先生



森孝之先生

北里大学同窓会公開講演会を終えて

北里大学医療衛生学部 医療検査学科 微生物学
教授 久保 誠

去る2023年2月11日（土・祝）、小田急線相模大野駅前にあるユニコムプラザさがみはら（bono相模大野3F）にて北里大学同窓会公開講演会が行われました。2022年度は理学部同窓会が主催となる番とのことで、衛生学部生物科学科（現理学部生物科学科）3期生（1994年卒業）の私が講師を拝命しました。

今回、私は「新型コロナウイルス感染症の現在～北里大学での取り組み～」について講演しました。コロナ禍で生活する方々にとって高い興味関心事であったことから、前日に雪が降ったにもかかわらず、会場に座り切れなくなる程の一般の方々がお越し下さいました。

COVID-19が世界中に蔓延した2020年以降、私はリスクの高いウイルスを取り扱うことができる自身の技術力を活かし、COVID-19関連の研究を遂行しています。したがって、講演の内容は【第一部】ウイルス感染症について、【第二部】コロナウイルスとCOVID-19、【第三部】北里大学とCOVID-19研究の三部構成でお話しを展開しました。基本的なウイルスに対する知識に加え、ウイルスの基礎研究や予防医学的観点から適切な消毒剤の種類や使用方法についても紹介をいたしました。新興感染症であるCOVID-19における地道な研究過程や感染予防対策について、これまで集

積した結果やデータを多少でもお伝えできたように思います。与えていただいた45分の講演時間は瞬く間に過ぎてしまいました。COVID-19や感染予防対策について直接的な啓蒙活動ができました。今回の経験を通して、COVID-19を含む多くの感染症と日々、向き合っている一般市民の方々がエビデンスのある情報や正確な知識をもって安心して日常生活を送れるようにすることも、一人の研究者として大事な役割であると感じました。また、北里大学のある相模原市でも最先端の研究が繰り広げられていることを地元の皆様に知っていただく良い機会にもなったかと思えます。タイムリーなテーマであり、多くの皆様の熱心に聴いて下さる姿が非常に印象的でした。

質疑応答では、COVID-19やワクチン、後遺症についての質問が飛び交い、大変活発な講演会となりました。私たち一人ひとりが新型コロナウイルス感染症と向き合い、手洗い・うがいといった感染予防対策を日々心掛けることで様々な感染症から身を守る大切さについても改めて確認することができました。

最後になりますが、このような講演の機会を設けていただきました、理学部同窓会の関係者の皆様に感謝申し上げます。

近況報告バトンタッチ

「好きを仕事にして」

HB2 藤谷 和子

このバトンタッチ2回目の登場になります、旧衛生学部生物科学科2期生の藤谷和子と申します。現在は北里大学医学部のDNA実験センターという共通利用施設でテクニシャンとして働いています。

旧衛生学部で修士課程を修了し、初めて仕事に就いてから今までの間、ずっとテクニシャンとして仕事を続けてきました。今の職場は8箇所目です。ご存じの方も多いかと思いますが、この世界でテクニシャンとして安定した職に就くことはとても難しいです。任期付きのプロジェクトで3年くらい働いては次を探すという状況が長く続きました。国内外を転々として、引っ越しがとても上手になりました。縁あって8年前に現職に就いてからは、パーマネントという光り輝く称号を得たような気持ちで腰を据えて仕事をしています。

タイトル通り、私はテクニシャンという仕事が好きです。素晴らしいアイデアを形にしていく一端を担うのは楽しいですし、子供の頃から手先が器用だった自分にはとても向いている仕事だと思っています。もちろん上手くいかずに悩み苦しむことも少なくありません。自分の未熟さに滅入ることもあります。そういう事も良い結果が出た時に仲間と喜び合うことで吹っ飛びます。学生時代、研究所で実験補助のアルバイトをしていた頃から数えて30数年、ずっと好きで続けてきて今でもこの仕事でお給料がいただけていることに感謝しています。

テクニシャンという「お手伝い」と思う方もいらっしゃるかもしれませんが、もちろんチップを詰めたり、ペーパータオルの在庫を確認したり、事務仕事も結構ありますし、ラボの環境をよく保つためのお手伝いの要素もありますが、私は研究者の頭の中にあるアイデアを形にするために必要な仕事だと思っています。そのためには正確に実験をこなす手が必要ですし、それにはある程度の経験が物を言います。言われたことをやるだけではなく、より良い結果を導き出すためには何をすれば良いかディスカッションもしますし、勉強もします。実験を早く正確に行うためには、手抜きをすることもあります。手抜きといっても原理に逆らうようなことはしてはいけません。ちょっと「うまいこと」をやるだけで自分と仕事は捗ります。「うまいこと」はちゃんと考えてやらないと酷い目に遭います。そのちょっとした技を生み出すこともテクニシャンとして楽しい部分です。日々目まぐるしく変化するサイエンスの分野で生き残るために、進んできた老眼や、衰える記憶力と闘いながら、自分の経験を活かしていきたいと思っています。

実は5年ほど前に論文博士で PhD になりました。現場で何かが変わるわけではありません(給料も同じです)が、その過程を乗り越えたことが自信となり、さらに新しいことに挑戦したいという気持ちも芽生えました。医学部ではテクニシャンが科研費に応募することが認められており、何度か「奨励研究」に応募し採択されています。自分の研究ができる環境があるというのは非常に楽しく、ご協力くださっている方々に心から感謝しています。大学にいとビジネスの世界からは縁遠くなりがちですが、自分がやっている研究でパテントが取れたらいいな、とか、世界の人に使ってもらえる技術を開発したいな、と思うようになりました。いつかみなさんのお目に留まるような仕事をしたいです。

仕事以外では、10年前に始めたスキューバダイビングを楽しんでいます。他にも火を起こすことにハマっていて、河原に行くとブッシュクラフトで焚き火をすることがあります。写真は去年のハロウィンでバーベキューをした時のものです。

人生は楽しんだもの勝ちだと思っています。

次は、生物科学科の同級生、岩佐剛さんにバトンを渡します。



近況報告バトンタッチ

「大学院進学後、様々な経験を経てパティシエに」

SP8 小泉 直也

将来、物理学の研究者になりたいと漠然と思いながら、物理学科に入学したのは2001年でした。人一倍理解力の乏しい私は、平日のみならず土日もS号館の3階のラウンジで、一人勉強に励んでいました。2年生の初秋の頃、ある数学の問題に1週間向き合うもどうしても自力で解けず、挫折したことがありました。その日の夕暮れ時、駅に向かう人気のない薄暗い森林の抜け道を自転車で走りながら悔し涙を流しました。もしもあの時、抜け道ではなく普段使っている人通りのある住宅街を走っていたら…。あの時の涙が、己の能力の限界と、現実を直視する事の大切さを教えてくれたのだろう、と私は思っています。そんな私にとって、北里大学が医療系の大学であった事が救いでした。物理学科でもマウスの解剖実験や、免疫学、生化学といった生物科学科の授業を受けられた事は、新たな夢を抱くきっかけになりました。中でも私がちょうど物理学者への夢を諦めた頃に受講した生化学（酵素や代謝経路）に対してひととき興味を持ちました。3年生では物理学と並行して、化学科の有機合成化学や、生物科学科の酵素学など各学科の専門必修科目を先生に頼み込み、受講していました。そんな連日の長時間の勉強がたたり、過労で倒れ車椅子で隣の本病院に運ばれた事もありました。私の人生において最もなにかに本気で打ち込んだ瞬間でした。4年生の研究室配属では、当時の生体機能講座に特例で配属させて頂き、酵素の機能解析に関する卒業研究を実施しました。当時の理学部は所属学科に関係なく、勉強したい学生を本気で応援してくれる先生方が多かったように思います。

その後、東京工業大学大学院に進学し、多糖分解酵素に関する研究に励みました。当時、研究の合間にカフェ巡りをしながら珈琲タイムを楽しむのが趣味でした。この頃から、いつか、自分の理想のお店を持ってみたいと漠然と考えるようになりました。大学院修了後は、味の素株式会社にてグルタミン酸ナトリウムに関する研究や特許などの知的財産に関する業務に従事していました。そうした中でもプライベートでは変わらずカフェ巡りを堪能していました。1人で行ったら資格の勉強をしたり携帯ゲームを楽しんだり、友人で行ったら会談を楽しんだり、と様々な用途でカフェを利用していました。個性豊かなあらゆるカフェを見れば見るほど、自らお店を作る事への興味関心が高まりました。そして、意を決して5年勤めた味の素を退職し、カフェを開く夢を実現するために一年制の製菓学校に通い始めました。この時32歳

の私は、一回り以上年下の子達と一緒に菓子作りを学びました。製菓学校卒業後は勉強のために帝国ホテルにてパティシエを3年間経験しました。

そして、帝国ホテルで知り合ったパティシエの先輩と二人で2018年に株式会社ティーフルを設立し、目黒区大岡山にてcafé & patisserie Teafullを開業しました。自分のお店を開きたい…と思い始めてから9年経って実現させることができました。昨年には、川崎市新丸子にて姉妹店Petite Renheur（プティット・レノール）を出店し、パティシエとして毎日様々な洋菓子を作っています。科学全般の広く深い知識を有する私だからこそ作れる新商品の開発や、科学的な解説を交えたお菓子教室の実施など、他のパティシエには真似できない取組みを積極的に進めています。今、このような活動ができてるのは、大学での学びを通してメタ認知能力や実行力などが養われた事も大きな要因の一つであると思います。

大学は授業を通じて勉強し知識を習得する事を主とする場所ですが、知識以外に何をどれだけ身に付けられるか…という事も重要だと私は思います。アルバイトの学生が単位取得を目的として勉強している話を聞くと、「大学に行く事の本質的な意義は何なのか考えなさい」と、つい思ってしまう。

次は、同じく2001年度生物科学科入学の平直江さんにバトンを渡します。



近況報告バトンタッチ

「予想もしなかった未来」

SC22 玉木 竣

2019年度理学部化学科卒業生の玉木竣と申します。この度は執筆のご機会を賜り大変光栄に存じます。

私は現在、北里大学医療衛生学部にて助教の職位をいただいております。卒業した学部とは異なる学部ではありますが、本学の卒業生および教員として日々、研究・教育に励んでおります。また私は4年前に本学を卒業しており、当時お世話になった先生方が現在も数多く在籍しておられます。そのため、当時の先生方と「学生」ではなく「教員」という立場でお会いすることができ、非常に感慨深い思いに溢れます。

私は医療衛生学部所属しておりますが、「なぜ?」と思われる方もいらっしゃるでしょう。私が医療衛生学部とのご縁をいただいたのは大学4年生の時です。化学科では3年生の後期にゼミ配属されますが、私は現在も在籍しておられる真崎康博先生のゼミに所属させていただきました。ゼミ配属後に卒業研究先の相談をしますが、当時の私は「有機化学または生化学の研究がしたいなあ」となんとなく曖昧な甘い考えをもっておりました。しかし、このような甘い考えを持った私を真崎先生は真摯にご対応くださり、卒業研究先として現医療衛生学部学部長である市川尊文先生をご紹介くださりました。ここで医療衛生学部との縁が生まれ、私の人生の転機であったと感じております。貴重なご縁をいただいた真崎先生には改めて厚く御礼申し上げます。

そして、私はこの配属により生涯の恩師となる市川尊文先生、川島麗先生にお会いする事が出来ました。当時医療系の知識など持たず浅学であった私は、医療系の学部で卒業研究を行うことに不安を感じておりました。しかし、そんな私に対して市川先生は「大事なのは今までではなく、そこで何をやるかだよ。」というお言葉をかけてくださり、非常に安心した事を今でも鮮明に覚えております。また、川島先生には学部生から大学院卒業に至るまで、優しくそして熱心にご指導いただきました。川島先生は私の疑問に対して、的確に答えながらも自らが考える余地を与えてくださり、学びと共に成長を目指す教育を施してくださいました。この教育は、現在教員として働く私にとって「教育の教科書」となっており、ご指導いただいた川島先生には感謝の気持ちが尽きません。お二方には「先生」として在学時代非常にお世話になりましたが、現在は私の「上司」となっており非常に感極まる思いでございます。

ここまで私についてご説明させていただきましたが、私はこの大学生活で「人生何が起こるか分からない」と

いう言葉を実感致しました。今の将来像は、運が良かったという面もありますが、自身が様々なことに興味を持ち行動を起こしたという事も一因だと考えております。そのため、何かをやるか迷っている方がいらっしゃいましたら、とりあえず挑戦してみれば、予想もしない面白い未来もあるのではないかと存じます。

最後になってしまいましたが、改めて近況報告をさせていただきます。私は先日、第96回日本生化学会大会に参加させていただきました。開催地は福岡となり、コロナ以降久々の現地での参加となりました。学会会場では、抽選くじや食事屋台の出店等が行われており、コロナ以前の活気が戻りつつあるように感じました。まだ完全に戻ったとは言えませんが、いつかコロナが完全に落ち着き同窓生の方々とお会いできる日が来ることを願っております。

次は苦楽を共にした友人である化学科同期の池田洋一さんにバトンを渡します。



福岡で食べたもつ鍋



新千円札発行に寄せて



HC14 森 孝之

(北里柴三郎記念博物館勤務)

北里柴三郎博士の肖像が印刷された新千円札が2024年7月3日に発行されます。肖像使用の目的は「偽造防止と紙幣に対する親近感を抱いてもらうため」と国立印刷局HPに書かれています。新紙幣の肖像決定の発表が2019年4月9日ですので、5年経過しました。「やっと」というか、「意外に早かった」というか、時の経過は人によって感じ方が違いますね。しかしながら、北里柴三郎顕彰業務に長く携わっている者としては、いよいよお披露目かと嬉しい気分です。北里柴三郎記念博物館（旧北里柴三郎記念室）では新札発行に際して報道関係からの取材対応で忙しくなることが予想されます。

さて、肖像採用にあたって壱万円札・五千円札、千円札に共通して求められた条件は何かというと、「日本の近代化に貢献した文化人である」ことだそうです。そして重要な事として次の2点が挙げられています。

- 1) 精密な写真や絵が残っていること
- 2) 品格があり国民によく知られていること

つまり、日本銀行券として発行される新紙幣は、この先約20年間（紙幣の図柄は約20年ごとに変更）は日本を象徴するものとなります。肖像は日本を代表する有名人、日本の発展に貢献した人物が採用されるということが良く理解できます。肖像画の原版を作成するに際して4枚の写真が使用されています。工芸官は写真を基に1枚の「コンテ画」と称する「絵」を仕上げます。これを金属原版に彫り込んでいくのです。1mmの幅に12本の線を刻む技術が求められるそうです。また、今回の新札には最先端の技術が導入されています。深凹版印刷（触るとざらざらしている、紙幣の区別が付きやすい）、肖像模様（お札を傾ける、手に持った時になるべく水平にして額面数字を見ると表示されている数字が浮かび上がる）、これらは紙幣を使用する人たちへの配慮だそうです。そして、画期的な3Dホログラムです。肖像が立体的に見えて回転することです。右側・左側の写真が必要だった理由が分かりました。これは世界初の手法とのこと。特徴的な偽造防止策として、マイクロ文字を使用し虫眼鏡で確認できるがコピー機では再現不能な小さな文字、特殊発光インキで紫外線を照射して発光する印章や模様、高精細すき入れ（すかし）等の細工が施されています。

それでは、その4枚の写真を紹介いたします。北里博

士は威厳と力強さが感じ取れます。伝染病に屈する事のない衛生国家を造るという気概に満ち溢れています。特に、46歳の時の写真ですが、北里博士は研究者人生で大きな転換期を迎えています。1899年4月1日、北里博士が所長を務める私立伝染病研究所は内務省所管の国立伝染病研究所となり、自身も高等官二等の所長に任命されたのです。日本を代表する伝染病に特化した研究機関として国内外での活動が求められるようになりました。新規薬剤の開発、予防治療法の確立、衛生観念の向上、そして一般市民に対する清潔・消毒法の指導・普及などに取り組んでいきます。彼の両肩にはその責務が乗っているのです。北里博士は伝染病研究の講習会で次のような話をしています。「伝染病に対する確実で実効性のある対策は衛生環境の整備にある。病毒の繁殖、拡散蔓延を防ぐことにある。しかし、万が一病毒の侵入を許し患者発生或る時は他の他域への拡散を防遏すべきである。そして必要となるのが細菌学である。」細菌学とは病毒の性質や感染経路の解明及び適切な病毒撲滅法・予防消毒法の実践に向けた原動力となり科学的根拠を与える学問である、と述べています。北里博士が目指す伝染病対策の根幹です。



新日本銀行券千円札コンテ画（複製）



46歳（1899年）



48歳（1901年）



51歳（1904年）



57歳（1910年）

ここで今一度、新札発行に関して考えてみましょう。新札の発行は北里博士の業績と社会貢献を再認識するには最も相応しい機会かもしれません。皆さんもご存知のように、肖像採用決定の報道から現在に至るまでの間には世界的な感染症の蔓延がありました。病原ウイルス「SARS-CoV-2」の出現です。新型コロナウイルス感染症の拡大に関するWHOのパンデミック宣言は2020年3月11日でした。コロナ禍として国内でも緊急事態宣言が発出され社会が騒然としていました。人々がパニックを引き起こした大きな要因は特效薬の無いこと、ロックダウン等の物理的封じ込めの限界、経済活動との不均衡など政府のかじ取り一つで国内の情勢が大きく変わるという不安が充満していたからでしょう。

これを踏まえた時、現在より劣る未成熟な医療体制の中で北里博士たちはどの様な方法で伝染病に立ち向かったのでしょうか。コレラ・赤痢・腸チフス・ジフテリア等の伝染病で多くの国民が犠牲となっていました。北里博士は血清療法やワクチン、化学療法剤の研究開発を急ピッチで進めると同時に、国民への意識改革を目指します。公衆衛生への理解を求めたのです。致死率の高い伝染病に対して、まず優先すべきは他人へ感染させないという感染経路の遮断であり、消毒法の指導・普及でし

た。これらは特效薬が供給されるまでの時間稼ぎに過ぎませんが、これらの考え方や取り組み方が理解・実践されることで集団的予防法、個人的予防法による大きな効果が得られるのです。そして、「感染しない為には健康管理に努め免疫力を高めておくこと」も重要なポイントの一つであると位置づけたのです。他方、徐々に近代化されていく鉄道・船舶などの交通・輸送網の発展に乗じた感染拡大が危惧されていました。そこで北里博士は簡単明瞭なる一言にその思いを込めています。曰く、「伝染病の撲滅は国民運動である」として、国民一人ひとりの自制した行動に期待したのでした。

今後も、人類は幾度となく新興再興感染症に悩まされる時があるかと思えます。そんな時は新千円札をじっくり見つめ、北里博士が提唱した「予防医学」に想いを馳せて下さい。我々、北里大学卒業生にとって新千円札は安心安全の「お守り」でもあるかもしれません。必ず1枚はお財布に忍ばせておきましょう。お財布を新調した時に「お金にご縁がありますように」として5円玉を入れたりしますが、これと同じように北里先生が常に懐にいれば学業も仕事もうまくいくでしょう。そして、大いに買い物をして、どんどん流通させて社会を活性化させましょう。

理学部事務室より

● 2024年オープンキャンパス開催情報(未定)

日程は決まり次第理学部ホームページに掲載します(ウイルス感染拡大等により、開催方法が変更あるいは中止になる場合があります)。

各研究室、実験室を開放し様々な展示及び体験型実験教室を開催します。

● 2024年進学相談会

○入試対策講座・進学相談会開催情報(未定)

日程は決まり次第理学部ホームページに掲載します。学部別入試対策講座をオンラインにて開催します。

○北里祭・進学相談会開催情報(未定)

日程は決まり次第理学部ホームページに掲載します(ウイルス感染拡大等により、開催方法が変更あるいは中止になる場合があります)。

模擬講義・個別相談を実施します。期間中は北里祭も同時開催されます。

● 入試過去問題

北里大学ホームページ受験生サイト (<https://www.kitasato-u.ac.jp/jp/goukaku/index.html>) に掲載されています(2023年度入試過去問題集はお問い合わせいただければお渡しすることも可能です)。

● ハーバード大学との国際交流

理学部では、夏にハーバード大学との国際的な視野を備えた研究者の育成を目指す国際交流プログラムがあります。このプログラムは2009年度から派遣・招聘を隔年で実施していますが、2020年度～2022年度は残念ながら新型コロナウイルス感染拡大の影響により対面での交流を行うことができませんでした。

今年度は3年ぶりに対面交流が叶い、6名の学生をハーバード大学に派遣しました。研究者とのミーティングや病院施設・マサチューセッツ工科大学・Broad研究所を見学することができ、とても充実した交流をすることができました。

● 求人情報をお寄せください

本学部の就職状況については、理学部同窓会のご支援もあり、毎年100%近い就職率を維持しておりますが、昨今の経済状況を鑑みると決して楽観出来る状況ではありません。学生たちは学業の傍ら、厳しい就職活動をくぐり抜けなくてはなりません。そこで、同窓会の皆様におかれましては、益々のご支援、ご協力を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

求人票の学生への周知や、学内での企業説明会のご要望などを随時承っております。

● 理学部ホームページ全面リニューアル

理学部ホームページを全面リニューアルしました。メインターゲットである高校生に興味を持ってもらえるよう北里大学理学部の特徴をアピールし、また、より簡略的に情報を取得できるよう改良しました。ぜひご覧ください。



● 理学部公式X(旧Twitter)

理学部の入試情報や、物理学科・化学科・生物科学科の最新情報・イベント情報などを発信していますので、ぜひご覧ください。



● 物理学科模擬授業

主に神奈川県、東京都の高等学校を対象に、5つのテーマを用意し出張模擬授業を実施しております。

詳しくは、北里大学理学部 物理学科 スペシャルホームページ (https://www.kitasato-u.ac.jp/sci/resea/buturi/phys_sp/) をご参照ください。



お 合 わ せ い 先

理学部入試に関すること	TEL 042(778)9172 (入試係直通)	FAX 042(778)9953
就職に関すること	TEL 042(778)8545 (学生課直通)	FAX 042(778)9953
大学院入試に関すること (理学研究科入試係直通)	TEL 042(778)9083	FAX 042(778)9953

【就職情報・求人票ご提供のお願い】

北里大学就職センターでは、各企業・機関から受領した貴重な求人情報は、「進路支援システム」（本大学学生用就職情報公開サイト）に一括掲載し、全キャンパスの学生がWebで閲覧できるシステムになっています。

同窓会の皆様からも是非、後輩のために求人情報等を就職センターにご提供ください。手続きにつきましては、本学ホームページ「資格・就職」から「求人受付NAVI」（企業登録手続きがあります）を通じ求人情報を入力することができますし、ご郵送・FAX・E-mailでも受付けております。

卒業後に転職・就職を希望している方も既卒者専用「進路支援システム」がご利用できます。ご利用頂く場合には、下記①～⑤の情報を就職センターまでメールでお送りください。折り返し既卒者専用ID・パスワードをお知らせいたします。（在学時のID・パスワードは使用できませんので、ご注意ください。）

メール件名：進路支援システム利用希望

メール本文：①氏名 ②卒業時の学部・学科・専攻 ③卒業年月 ④学籍番号 ⑤システム利用の理由（例：転職等）

【北里大学 就職センター】 TEL 042-778-9745
E-mail syusyoku@kitasato-u.ac.jp

同窓会からのお知らせとお願い

平素は同窓会活動にご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。以下の点につきまして、会員の皆さまにお知らせとお願いがございます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【同期会や研究室の同窓会を開催予定の方へ】

理学部同窓会では、正会員が同期会や研究室の同窓会（以下、同期会等という）を開催される場合に、当該名簿リストやタックシールの提供、それに通信費用の援助を行う事業を行っています。加えて、平成29年より同期会等の開催を本会ホームページに掲載するサービスを新たに開始しておりますので、是非本制度をご活用下さい。詳しくは理学部同窓会のホームページ（<https://kitasato-rigaku-d.jp/>）をご覧ください。

【理学部パンフレット同封について】

2008年第11号の会報発送より、北里大学理学部パンフレットを毎年1,000名の方々に同封しております。現在の北里大学理学部の様子がわかる他、ご子息・ご息女やお知り合いの方々に北里大学理学部をご紹介いただければ幸いです。

【同窓会へのメールについて】

近年、迷惑メールが増加しております。その判別のために、会員の皆さまが本会にメールされる場合は、「件名」欄に以下の事項をご記載下さいますようお願い申し上げます。

＜卒業年または卒業期、卒業学科、氏名＞

記載例：1971年化学科卒業 理学太郎 または
HC6 理学太郎

【会報への寄稿について】

同窓会報は年に1度の同窓生との交流の場です。皆さまの近況報告や同期会のお知らせ、大学時代の思い出などをお気軽に寄稿下さい。同時に、会報へのご意見もお寄せいただければと思います。

編集後記

同窓生の皆さまこんにちは。化学科3期生の中野（旧姓鈴木）章代です。理学部同窓会報第27号をお届け致します。ご寄稿いただきました方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回は7月3日から発行されます新札のお話をご寄稿いただきました。是非ご覧ください。お札の中では一番使用頻度の高い（私だけ？）お札に、我々の学祖北里柴三郎先生が！お財布を開けるのが楽しみになりますね。

今年度から同窓生の皆さまの近況をご報告する記事「バトンタッチ」を再開致しました。毎回、次にご寄稿いただける方にバトンを渡していただく企画になっています。もしバトンが回ってきましたら、是非同窓生の皆さまにご自身の近況をご報告いただければ幸いです。その他にも、ご自身の近況を同窓生にお知らせしたいという方がいらっしゃいましたら、是非原稿をお送りください。また同窓会報につきまして、ご意見ご感想がありましたら事務局までお寄せください。

化学科分子機能化学講座 真崎康博教授 化学科反応機構学講座 丑田公規教授 生物科学科細胞生物学講座 太田安隆教授 退任記念講演会開催予定

2024年3月22日（金）

開催時間、場所、演題等は未定です。

詳細が決まりましたら理学部同窓会のホームページに掲載しますので随時ご確認ください。

北里大学理学部同窓会報

発行 2024年1月31日

発行者 北里大学理学部同窓会

〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1

北里大学理学部内 TEL/FAX 042-778-9032

E-mail: info@kitasato-rigaku-d.jp

責任者 甲斐恒人